

2020年2月下旬から3月上旬 キャンヘルプタイランドの支援現場を訪問するチャンス!

孤児院・学生寮に滞在、寮の子どもたちと交流ボランティア
田舎の生活を体験、日本人スタッフが応対、チェンマイ国際空港送迎

2020年2月25日から3月6日までの期間中にタイ王国チェンマイ県にある「カサロンの家」に遊びに来てください。NPO キャンヘルプタイランドの日本人スタッフが現地で応対しますので、東南アジアへ行ったことのない方、通訳なしでの旅行に不安のある方、海外ボランティア入門者の方などなど、どなたでも気楽に「カサロンの家」を訪問いただけます。

※「カサロンの家」滞在には、1泊5,000円程度の滞在費（宿泊費、食費、移動費、寄付等）が必要です。

○「カサロンの家」とは？

タイ北部山岳部に住む少数民族の子どもたちの為の学生寮「カサロンの家」は、2005年3月にチェンマイにある財団「YCF」と共同でキャンヘルプタイランドが建設しました。

2005年3月に第1棟（現在の女子寮）、8月には家畜小屋、2006年には第2棟（男子寮）、その後、食堂などの建設や第1棟の増築工事などを経て「カサロンの家」は現在の姿になりました。

幼稚園児から高校生までの約20名の山岳少数民族出身の子どもたちが親元を離れ仲良く共同生活しています。

○「カサロンの家」の目的

タイ山岳部の少数民族の住む地方には学校のない村がたくさんあります。小さな子どもたちは勉強の機会に恵まれません。そんな子どもたちは、計算もできず読み書きもできず、タイ語も話せないまま大人になっていきます。村に留まりそのまま農業を続けていくのなら大きな問題ではないでしょうが、そんな村にも文明の波が押し寄せ、少数民族の人たちは、携帯電話やテレビ、バイクや車を買



うるために多額の現金を必要とするようになってきました。そして、農業だけでは収入が足りず、街へ出てもっと高収入の仕事を求めるようになりました。しかし、民族の人たちは、タイ語を話せず、学力もないため、街へ出てまともな仕事に就くことはできないのです。男性は危険な建築現場で重労働を強いられたり、女性は、騙されて夜の仕事を強要されたりしました。特に90年代は少数民族の女性のエイズ問題がとて深刻になりました。エイズ感染した女性は街にとどまることができず、村へ戻り別の男性と結婚し子どもを出産するなどして、夫婦感染や母子感染などが大きな社会問題となりました。また、手っ取り早く高収入を得るためにミャンマーからの麻薬の密輸などに手を染める若者も多く存在します。

そんな、負の連鎖を断ち切るため、少数民族の子どもたちを寮生活させ、街の学校へ通わせて学力を向上させる目的で造られたのが「カサロンの家」です。

「カサロンの家」ツアー問合せ先

メール：office@canhelp.jp

電話：050-3578-5131

担当：坂（ばん）

特定非営利活動法人

キャンヘルプタイランド

〒450-000

名古屋市中村区名駅南 2-11-43 日商ビル 2階

TEL/FAX 052-566-5131

Mail office@canhelp.jp